



流紋岩の山  
(立岩の西、塔状にそそり立っている。)

G：高郷村郷土資料館——大谷——下三方——栃窪——地割——塔ノ窪——本村（約20km、車で約2時間）

北へ足をのばせば、大谷付近の緑色凝灰岩、栃窪の貝化石、地割・塔ノ窪のみごとな地層の重なりが観察できます。

H：高郷村郷土資料館——滝下利田——中山・大芦——小ヶ峯（約11km、車で約1時間）

滝下利田付近では、利田層の泥岩と花コウ岩が観察されます。大芦や中山にいくと、緑色凝灰岩が沢や山ぎわに露出しています。また、中山から小ヶ峯に通ずる道路には、緑色凝灰岩のみごとな露頭がみられます。

### (3) おもに地形が観察されるコース

I：高郷村郷土資料館——<sup>ふきや</sup>吹屋——<sup>さいかち</sup>西海枝——塩坪——<sup>にしやじ</sup>西谷地（約10km、徒歩約8時間）

阿賀川に沿って発達する河成段丘（昔の川床が地盤の隆起運動で上昇したため、何段かの平坦面となっている地形）は、約5段、それらがこのコースで見事に観察されます。また、吹屋の北部と「へつり」の山には、地層の傾斜に調和して、山の斜面ができる、いわゆる「ケスタ地形」が見られます。